

心の栄養剤 No.229 『不適切もあり、輝きもあった時代』

今年1月から3ヶ月にわたって放送されたTBSの金曜ドラマ『不適切にも程がある!』（全10話）は、昭和と現代、それぞれの常識が交叉する大胆な番組だった。

それほど昔のことではないのに、言葉や風俗があまりにも過激で、視聴者からのクレームの事前対応策なのだろう、毎回次のようなテロップが流れていた。

「この作品には不適切な台詞や喫煙シーンが含まれます……本ドラマの特性に鑑み、1986年（昭和61年）当時の表現をあえて使用して放送します」

主人公は中学の体育教師・小川市郎（51）。容赦のない生徒指導ゆえに「地獄の小川」と呼ばれていた。

職員室のシーンがあった。男性教師全員が喫煙していた。一人の教師が若い女性教師・高杉舞に、「デカ過ぎパイ先生」というあだ名で呼び、「初体験はいつ?」とからかっていた。

放課後、野球部の顧問をしている市郎は、水を飲んでいた生徒を見つけ、「練習中に水飲むな。連帯責任で全員ケツバットだ」と叫び、部員全員のお尻をバットで叩いていた。

パワハラ、セクハラのおんパレード。まさに昭和の一風景だ。

ある日、市郎は都営バスに乗り、いつものように最後列に座って煙草を吸い始めた。

実はそのバス、バスの形を真似たタイムマシンだった。バスはそのまま2024年にタイムスリップしてしまう。

バスに短いスカートの女子高生が乗ってきて驚く市郎。片や車内で喫煙している市郎を見て驚く女子高生。続いて乗ってきた高齢の男性が、市郎の喫煙を注意しようとする周囲から「刺されますよ」と止められる。

市郎が居酒屋で酒を飲んでいたら、隣の席で男性会社員が上司から注意されていた。

「この前、〇〇さんに『明日プレゼンだね。期待しているよ』と言いましたね。あれはパワハラです。飲み会で『いいお嫁さんになるよ』とも言いましたね。あれはセクハラです。」

聞いていた市郎が、突然口をはさんだ。

「ふざけるな。何なんだ、この時代は。期待されて頑張っ、失敗して叱られて、そうやって強くなるのが人間じゃないのか！」

昭和の時代にはなかった「セクハラ」「パワハラ」「働き方改革」という言葉に面食らい、「そんなに昭和が悪なのか。昭和のほうが景気がよかったぜ」と反論する市郎であった。

今は「多様性の時代」なのだという。「多様性」とは何なのか。学校でも職場でも、御上から全国津々浦々同じような指導がなされ、上司は何も言えなくなり、現場はピリピリし、心を病んで休職している人は増えている。

それとは対照的に昭和の時代の学校にはユニークな教師がたくさんいた。各々が自分の教育方針を持っていて、のびのびと子どもと向き合っていた。

長年、小学校の教壇に立ち、三つの小学校の校長をして退職された齋藤正健さん（80／宮崎県国富町在住）もそうだ。6年生の担任をしていた時の話を聞いたことがある。

ある年の修学旅行の前日、齋藤先生は子どもたちにこんな話をした。

「いよいよ明日から修学旅行です。バッグや靴、旅行費用、たくさんお金がかかったことでしょう。今からお父さん、お母さんにお礼の手紙を書きましょう。」

翌日、親が見送りに来る。バスが出る直前に手紙が手渡される。突然のことに「えっ! 何?」と驚く親たち。目に涙を浮かべる母親もいた。後日、たくさんの保護者から「とても嬉しかった」という言葉をもらったそうだ。

ある年の家庭訪問の時期にはこんな話をした。「どのお家でも先生は20分ほどしかいることができません。みんなのことをもっと知りたいから家族のこと、学校の行き帰りのことなどを作文にしてください」

子どもたちは夢中で書いた。朝早くから夕方暗くなるまで畑仕事を頑張っている親のこと、家の後ろには亡くなったおばあちゃんが自慢げに話していた大きなかしの木が立っていること、家に自分が生けた生け花があること。子どもたちが先生の来訪を楽しみにしていることが伝わってくる作文だった。

それを齋藤先生は保護者の前で正座して、一語一語噛みしめながら心を込めて読んだ。

これぞ昭和の一風景。今の時代、プライバシーがうるさく、こんな作文は書かせられないだろう。あの時代、デリカシーは少し欠けていたが、人々の目はキラキラしていた。

このテレビドラマは私自身の若い頃～学生の頃「そうだそうだ～そんな事あったなあ～」と思い出しながら面白く毎週見てました。

本当～いつの間にか「パワハラ」「セクハラ」「働き方改革」というようなフレーズが世の中に蔓延してきた気がします。

そんな中、先生とか～政治家とか～芸能人とか～人前に出る仕事であればあるほど色々なプレッシャーがかかりやすい時代になり、身近では、学校の先生方の心身共のストレスはツラそうで、実際、うつ病等の症状に苦しんでいる方が沢山いらっしゃいます。

私が学生の頃などは、先生は威厳があり、「口答え」するなどは考えられず、叱られ方としては、廊下に長時間、正座させられたり～運動場を何周も走らされたり～ゲンコツをもらう事なども日常茶飯事だったし、時には理不尽な叱られ方もあったと思いますが、そんなおかげで社会に出てからも頑張っただけでこんなような気がします。

PS：現実を見てみると、

・世界中では、今も戦争や紛争があっいて、日本の周りには沢山軍事大国があるという事実！！

・南海トラフの恐怖や地球温暖化など自然環境に対する不安！！

・目に見えざるウィルス等の脅威！！

等々…先の見えにくい時代を生き抜く為の最も大切なポイントは、あらゆる意味での「逞しさ」を身につける事が最重要だと思う「今日この頃」です。

※余談ですが、小さい頃（お母さんのお腹の頃より）バイオリンクを食べて成長した子どもの逞しさはスゴイで～す！

くすりのキュート 倉光 浩城

※ご相談がございましたら、いつでもお電話くださいませ😊

TEL (090-8357-2904)

